



狭山三湖能力増大案と奥多摩湖貯水実量増加案

岡 部 三 郎

狭山三湖能力増大案

奥多摩湖の水は渇水期専用に貯蔵するものとし、常時は他の水系のほか、特に狭山湖を有効に活用しようとする案を提唱するものである。小河内えん堤下流に流入する多摩川水系の水は、従来どおり狭山湖に導入するものとし、さらに入間川の平常洪水(75 m³/sec 程度以下)を飯能下流に設ける沈砂池をとおして、約 10 km の導水路により狭山湖に自然流入させる計画である。もちろん飯能下流の農業用水、そのほかの必要水を本川に放流させることは当然である。

詳細な計算は不明であるが流域 160 km² の入間川流域

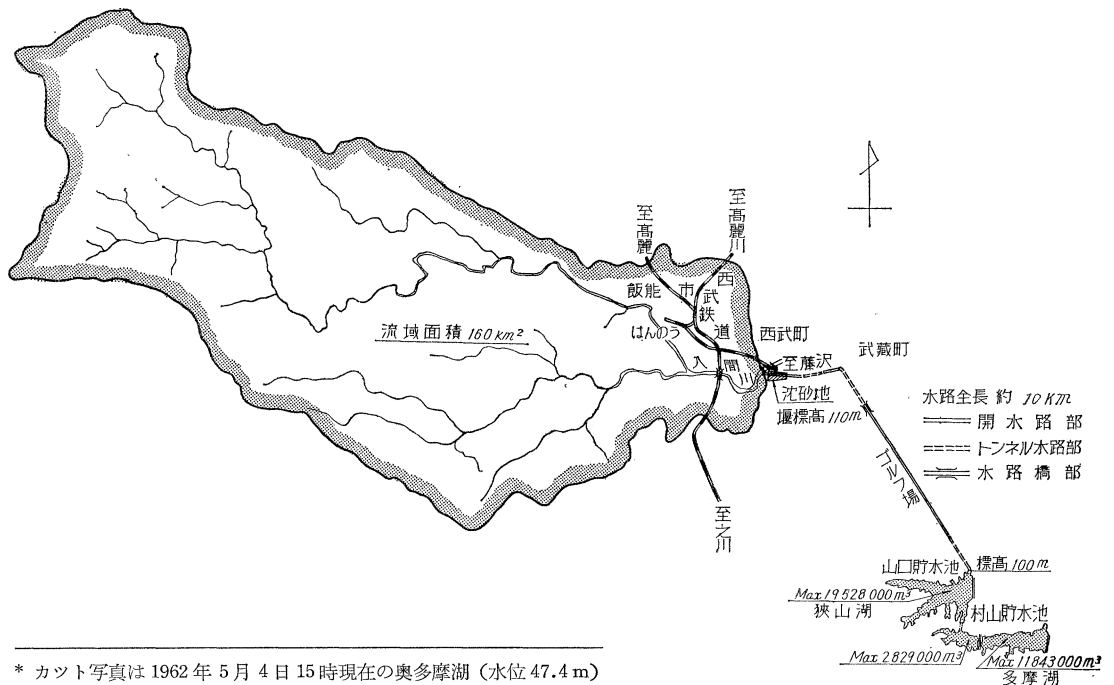
の総降雨量の 1/3 を狭山湖に導入することができると思えば、年間 7~80 000 000 m³ となり小河内下流の多摩川系以外にさらに入間川系の水だけで狭山湖の全容量を 2 回くり返し利用することができる。

本計画の特長は平地で工事容易なることと、開きよの大部分が平坦なゴルフ場であるから地元の諒解さえつければ 1 カ年以内の短期間にて工事の完成が可能であろう。よって来年度よりの水不足の緩和に役立つことと思う。

狭山湖の能力増加に対しては浄水設備は現在のものをそのまま利用しうる特長がある。

(1962 年 5 月 10 日・記)

入 間 川 流 域 平 面 図
(付 狭 山 湖 能 力 増 大 案)



* カット写真は 1962 年 5 月 4 日 15 時現在の奥多摩湖 (水位 47.4 m)

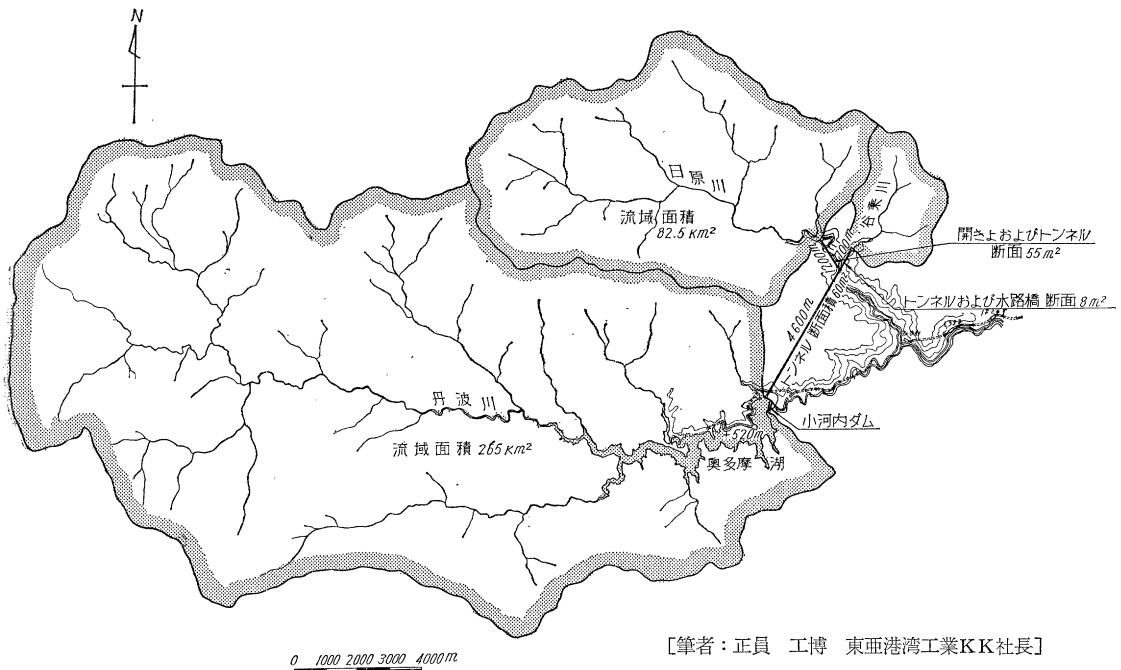
奥多摩湖貯水実量増加案

東京都の急激なる人口増大にともない小河内ダム計画当時のダムの放水量に比し、現在5割以上の増加をきたした結果、降雨量の特に多い年は別として奥多摩湖の湖水を見ることができない実情である。要するに今日に至っては、湖水の貯水能力に対して流域面積(約265 km²)の不足となることが明白となった。

この対策としては新たに他の流域にダムを設けるか、もしくは他の流域の洪水を現に貯水能力のあまいる奥多摩湖に流入させるほかに道がない。そこで筆者は日原川および谷乗川の流域(約82.5 km²)の洪水および平水(取入口下流日原川の最小必要渇水を除く)の大部分を奥多摩湖に導入して貯水能力をフルに利用しようとすることを立案した。日原川に高えん堤を設けることは地

元関係および経済上不得策であるから、日原川および支川谷乗川の標高500 m付近に軽易なる低えん堤(高さ10 m内外)と取入口を設け、これより主としてトンネルによって毎秒最大300 m³までの洪水を全部奥多摩湖に流入させる計画である。えん堤取入口の上流水位は奥多摩湖の最高水面以上とし、自然流下により主としてトンネルを通過して湖面に注入する計画で、詳細なる計算は別として、大体断面積60 m²勾配1/1000、延長6000 m程度のトンネルを予想すれば、工費は低えん堤2カ所をふくめ50億円内外で、奥多摩湖の貯水利用率は流域面積の比から考え約3割以上を増し、年間1億m³内外の水量を増加することができるから、僅少の工事費をもって2、3カ年の短期間に東京都の給水能力を相当増加する利益がある。(1962年2月12日・記)

奥多摩湖貯水実量増加案平面図



中村 廉次氏著「北海道のみなと」頒布について

本会名誉員 中村 廉次氏が精魂を傾けられた力作「北海道のみなと」が関係者の手によりこのほど出版されました。非常に数少ない貴重なデータの集積で港湾技術者ならびに土木史研究者の参考となろうかと存じます。著者の御厚意により会員の方には学会で実費で頒布いたしますから御申込み下さい。部数はきわめて少ないので品切れとならぬうちに至急お願いいたします。

記

体 裁: B判 254 ページ・折込付図多数・上製
 実 費: 950 円 (送料は学会で負担します)
 申 込 先: 土木学会 (新宿区四谷一丁目・Tel. 351-5138. 振替東京 16828 番)